



田原街道 宇津江坂

つい先日、渥美半島キラリ100選にも選定されている宇津江坂を訪れる機会がありました。今回の歴史探訪では、現在はあまり通ることのないかつての田原街道の名所であったこの坂を紹介したいと思います。

現在の国道259号は、野田から宇津江へ行くのに馬草を抜け海岸に沿って進んでいますが、かつての街道は馬草を通らず、野田からほぼ真っすぐに西に進み、山の中を抜けて宇津江集落の南側を通過して次の江比間へと続いていました。渥美半島を東西につなぐ街道では、唯一の峠道であるこの山坂を宇津江坂と呼んでいました。この坂を越す道は、旧道の姿をよく残し伝えてくれており、現在でも通行は可能ですが、車でのすれ違いが難しいので、訪れる際には注意が必要です。

また、昔は、今よりも高い坂道であったものを明治25(1892)年に道を掘り下げ、より歩きやすい道としました。その際に築かれた石垣が今も残り、街道としての風情を醸し出しています。

てんな
 天和元(1681)年
 の幕府役人の国廻り
 じょうきょう
 や貞享4(1687)年
 の芭蕉一行の通行、
 かえい
 嘉永6(1853)年の
 大垣新田藩主戸田
 うじやす
 氏綏の行列の通過、
 明治31(1898)年の
 かたい
 柳田國男、田山花袋
 の伊良湖来訪などの際にもこの峠を通ったものと考えられます。



▲宇津江坂(宇津江から野田方面へ向かう様子)

これらのことから、宇津江坂が江戸から明治期において、田原から福江、伊良湖へ向かう主要道の一部であったことがわかります。特に、田山花袋は、紀行文「伊良湖半島」で、この坂からの景色を絶賛しています。

現在の宇津江坂は、すでに街道としての機能を失って久しく、木々が生い茂り、かつての絶景が望めないのが残念です。(学芸員 天野敏規)